

子どもの心肺蘇生の手順

11. 子どもの気道異物除去

反応がある場合には、基本的に成人における手順と同じですが、乳児に対しては腹部突き上げ法を行わず、背部叩打法(図)のみを実施します。この回数は問わず、異物が取れるか反応がなくなるまで続けます。

反応がなくなった場合は、子どもの心肺停止に対して行う心肺蘇生の手順を開始します。救助者が一人の場合、子どもでは、通常の心肺蘇生を約2分間行ったあとに、いったん傷病者の元を離れてでも119番通報します。AEDが近くにあることがわかっている場合は、AEDを自分で取りに行ってから心肺蘇生を開始します。ただし、1歳未満の乳児に対してはAEDは使用しません。心肺蘇生を行っている途中で異物が見えた場合は、それを取り除きます。見えない場合にはやみくもに指を入れて探らないでください。また異物を探すために胸骨圧迫を中断しないでください。



救助者の片腕に乳児をうつぶせに乗せ、手のひらで乳児の顔を支えつつ、頭を体よりも低く保ちます。もう一方の手のひらの基部(手掌基部)で背中の真ん中を数回強く叩きます

図 乳児に対する背部叩打法